

ボーイスカウト東京連盟  
あすなろ地区 広報誌  
第33号  
2020年(令和2年)  
11月29日  
組織拡充委員会

## パイオニアリング技能章訓練

10月18日(日)、八王子のひよどり山野営場で、スカウトの技能章取得を促進し、進級の一助とするため、あすなろ地区のパイオニアリング技能章訓練が開催されました。

参加したのは地区のボーイスカウト14名、ベンチャースカウト9名、指導者21名の総勢44名でした。

9月27日(日)にオンラインの事前集会が開催され、プログラムの説明などがあり、事前課題として信号塔の設計図・材料表と、割りばしで作った模型を製作し、当日持参することになりました。

前日の17日には事前準備のため、ひよどり山野営場で奉仕の指導者が丸太材を正確に組み立てられるよう、本数、長さを揃え、結索の位置にマーキングを行いました。

当日、参加者は受付で体温測定を行い、模型を提出してマスク着用で活動しました。

開会式での注意事項の伝達の後、作業衣に着替え、事前集会で班分けした台形信号塔とピラミッド塔を作る2チームに分かれました。

丸太材などの必要資材を組み立て場所に運び、荒縄は水に濡らして、乾燥後は収縮して強度が増すよう準備しました。

丸太材の結索場所は担当を決め、模型で練習した通り、マークを目印にして“巻きしぼり”、“角しぼり”、“筋かいしぼり”などで、しっかりと結びました。

平面で組み立てていた丸太材が次第に立体的になり、補強の斜材も結び付けた段階で、上部に縄ばしごと長いロープを結びつけ、みんなで慎重に引っ張り、立ち上げました。

立ち上がった信号塔は、思っていた以上に高くそびえ、完成した達成感、連帯感を感じることができました。

信号塔の完成後に昼食をとり、午後からは手旗の原画、送受信の指導があり、発信者と受信に分かれて、ゲーム形式で短い文章を送受信したり、出来上がった信号塔の上に交代で登って、地上のメンバーに手旗で送信しました。

閉営式では参加者にパイオニアリング技能章訓練の認定証が渡され、信号塔の模型を基本通り正確に作成したスカウトには優秀賞の飴が手渡されました。

パイオニアリング技能章訓練は今年で3回目となり、繰り返し実施することで運営もスムーズになり、信号塔の出来栄も改善して成果が現れていることが実感できました。





受付で体温チェック



事前課題の信号塔の模型



荒縄で角しばり



メンバーの協力により、少しずつ信号塔の形に…



高い部分のはしごを使って結索



ロープを引っ張って慎重に立ち上げ



完成した信号塔を前に記念写真



手旗の練習



信号塔に登って手旗の発信



## ハワイのスカウトとオンライン交流会 杉並12団 VS隊長 中原一行

11月23日（祝）、永福和泉地域区民センターで杉並12団・13団VS隊の合同で、2年前に地区ローバーのハワイ派遣でお世話になったハワイのアロハ連盟181隊とのオンライン交流会を行いました。

午前中の交流会では、事前に日本のスカウトが自己紹介やあすなる地区の説明、各団の活動資料を用意して、英語で発表し、ハワイ側はそれに質問したり、ハワイ側の活動も紹介するという流れでした。

双方の紹介のあとは会話タイムとなり、コロナ禍における活動の情報交換や、日米での活動の違い等、ディスカッションしました。お互いにオンラインでハワイとの距離を感じずに話していると、初めて知る事や発見もあり、スカウトにとっても指導者にとっても、非常に有意義な国際交流の場となったと思います。

交流会の最後には、「いずれ日本とハワイをお互いに訪れて、今後是非交流しましょう」という話や、次回開催の話も出ており、今回の杉並12団・13団だけでなく、他団も参加して実施できればと思っています。

午後は儘田国際委員に「グローバル社会のこれから」というテーマで、世界大恐慌からのグローバルイゼーションの流れや、グローバル社会でスカウトが活躍するためにはどのような視点を持つべきかについて基調講演していただき、改めて国際化について考えるきっかけになりました。

午前中の交流を踏まえての午後の講義の流れは、スカウトだけでなく指導者としても、よい経験となりました。

コロナ禍で実施した初めての海外とのオンライン交流会ですが、今後はハワイだけでなく、他の国との交流会も企画していきたいと思っています。



オンラインの画面を見ながら国際交流



国際化について基調講演



東京の魅力や地区・団の活動を画面で説明



コロナでハワイのスカウト活動も停滞気味とのこと



上段：ハワイ連盟のバートンさん、Kevin隊長とスカウトの皆さん  
下段：杉並12団・13団のスカウト  
(写真のないハワイのスカウトも多く参加しました)



## ボーイスカウト講習会の開催

## 指導者養成委員長 沼上 幸一

10月4日(日)、第4回ボーイスカウト講習会がなかのZEROで開催されました。

主任講師は、日本連盟アシスタントリーダートレーナーの坂本哲さんで、21名の方々が参加し、3つの班に分かれて研修を受けました。コロナ感染対策として、2週間にわたる事前健康チェック、手洗い・消毒の徹底、教室形式での講義形態、マスクの常時着用、人と人の距離の確保などに留意しての研修となりました。

今年度から新しいカリキュラムとなり「世界に広がるボーイスカウト」「愉快的ハイキング」「スカウティングって何だろう」など、5つのセッションがありました。講義の中では動画鑑賞やグループ討議もあり、参加者の皆さんからは笑い声も聞こえてくるなど、楽しみながら学んでいたようでした。

参加された皆さんの各団・隊での活躍が期待されます。



§ (セッション) 1 講義風景



§ 1 講義



§ 2 班集会



§ 2 ゲーム



§ 2 ゲーム



§ 3 カードゲーム



§ 5 グループ発表



閉講式

# 東京連盟「測量章」講習会レポート 進歩委員長 中野11団 金田一良

技能章「測量章」講習会が9月13日(日)、立川市女性総合センター「アイム」とその周辺地域で開催され、あすなろ地区から8名が参加しました。

当初6月に開催の予定でしたが、コロナ対応のため9月に延期し、開催にこぎつけることができました。

過去の「測量章」講習会は1泊2日の「講習会」形式で行っていましたが、近年日帰り日程になったので「検定」方式に変更されています。そのため事前課題(日頃からの訓練)が重要となり、課題レポート、制作物の提出が必要となっています。

当日9時過ぎから集まりだしたスカウトは、受付にて検温、健康チェック、会計、事前課題の提出を済ませたあと、今回はコロナ対応のため、フェイスガードが配布されました。

地区をシャッフルした臨時のグループごとに着席して、開会式を行います。まずオリエンテーションを受け、全員で事前課題を記述問題で確認しました。

そこからグループごとに実技考査場所に分散します。

ここでは「歩測」、「木の高さを2種類の測定方法で計測」、「渡れない川の幅を測定」、「トランシット(測量器)の操作」を行いました。

ここで日頃の訓練成果が現れます。臨時のグループなので、他のスカウトに迷惑はかけられません。

昼食は各グループで距離を取りながら、モノレール下のベンチなどでとります。

30分の昼休憩の後、「実測図の作成」を行います。周辺地域に設定されたコースを、曲がり角にいるリーダーに案内されながら「野帳」を書きます。

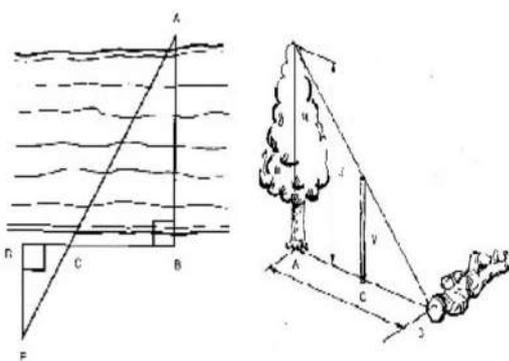
「野帳」には「進行方向の角度(コンパス)」、「次のポイントまでの距離(歩測)」、「周辺の様子(観察)」などを記録します。角度の測定ミスの有無や、歩測の均一性の有無が重要です。個人の考査になるので、他人に頼ることができません。

講習会会場に戻り「実測図」の作成です。コンパスや分度器、定規を使用して作成します。設定されたコースは周回コースでした。測定に不具合がある人は、スタートとゴールが一致しません。再計測を行う人や、図の誤差を修正する人がいました。しかし時刻は進んでいきます。

閉会式は予定時刻で行われました。ほとんどの人は検定が終了しましたが、「実測図」が完成していない人は居残り作業です。講師から丁寧に修正方法を学んでいました。

また講習会の参加により、他の地区のスカウトと交流をすることができました。

「測量章」の事前課題は通年で利用可能です。2級、1級細目と共通項目もあるので、スカウト活動に活用してみたいはいかがでしょうか？



川幅相似三角形 高さ見通し法

区画番号	区画名称	区画内容	備考
1	1区画	1区画	
2	2区画	2区画	
3	3区画	3区画	
4	4区画	4区画	
5	5区画	5区画	
6	6区画	6区画	
7	7区画	7区画	
8	8区画	8区画	
9	9区画	9区画	
10	10区画	10区画	
11	11区画	11区画	
12	12区画	12区画	
13	13区画	13区画	
14	14区画	14区画	
15	15区画	15区画	
16	16区画	16区画	
17	17区画	17区画	
18	18区画	18区画	
19	19区画	19区画	
20	20区画	20区画	
21	21区画	21区画	
22	22区画	22区画	
23	23区画	23区画	
24	24区画	24区画	
25	25区画	25区画	
26	26区画	26区画	
27	27区画	27区画	
28	28区画	28区画	
29	29区画	29区画	
30	30区画	30区画	

野帳の記入例



# 組織拡充フォーラム オンラインで開催 組織拡充委員長 広瀬治男

11月15日(日)、東京連盟組織拡充フォーラムがオンラインで開催されました。フォーラムは当初、靖国神社内の靖国会館で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインでの開催となりました。

フォーラムではウイズコロナ時代にあって「対策」より「創造」を、「ピンチをチャンスに」をキーワードに、「新しい組織拡充・広報活動」を考察しました。

白川委員長より「組織拡充の広報活動の現状と課題」の開会挨拶のあと、山本副委員長より「ICTを活用した組織拡充・広報活動」の講演がありました。

また、コロナ禍での募集活動を考察するため、各地区を通じて、今年度新規入団したスカウトの保護者に、事前に依頼した入団状況アンケート調査について、下表を使った報告もありました。

広報活動について、団側のスカウト活動の説明に対して、受け止める保護者側では十分に理解できず、疑問に感じたり、説明の不足を感じていることが回答に見られることから、こうした点の十分な配慮が望まれます。

午後はグループに分かれて、入団状況調査の内容を読み解きながら、保護者のニーズはどこにあるのか、コロナ時代の新たな募集方法について討議し、各グループの討議内容の発表が行われました。



オンライン開催のフォーラム

保護者が入団時に分りにくかったこと

- スカウト用語、スカウトの組織の説明が分かりにくい (9)
- 費用について(7)
- 活動内容について(5)
- コロナ禍によるもの(4)
- その他(5)

東京連盟組織拡充フォーラム 入団状況調査項目(留意)

★各団担当者記載事項

①入団者名:(イニシャルで可) 男・女

②入団した時期:2020年 月

③入団時の学年:

④入団した隊:BVS・CS・BS・VS

⑤ファーストコンタクト(1番最初の接点は):  
時期と媒体を記載してください。

⑥入団までの経緯をなるべく詳細に記載してください。

★入団した保護者へヒアリングをしていただきたい事項

①ボーイスカウトを知ったきっかけは何ですか?

②入団を決めた理由を教えてください。

③入団を決めた一言があれば教えてください。

④③はだれの言葉ですか?

⑤ボーイスカウトへ期待することがあれば教えてください。

⑥入団時に分りにくかったことがあれば教えてください。

右が質問内容、左は回答で数字は件数

ファーストコンタクトまとめ

- 1位 口コミ 23/94 24%
- 2位 団HP・Facebook
- 3位 日本連盟・東京連盟への問い合わせ 35/94 37%
- きょうだい入団+親が指導者またはスカウト経験者+団内の紹介 21/94 22%
- 地域のお祭り+団・隊のイベント 6/94 6%
- 一つの要因(媒体)だけで入団に結びつくわけではなく、複合的媒体により入団に結び付くと考えられます。

2位、3位を合せると、ネットによるコンタクトが最も多い

スカウト用語、スカウトの組織の説明が分かりにくい (9)

- 専門用語が多い
- 子どもに何をやっているのかと聞かれたときに説明に困った
- 組織の役割や名称
- 「団」・「隊」などの固有名詞が分かりにくい
- 組織の構図
- 日本連盟・東京連盟・地区・団の系統と相互の関係
- 育成会と団の関係
- 本質的な部分を知りたい
- 団と各隊の関係
- 必要なものを精査して伝える

スカウト用語は保護者に分かりにくい…

費用について (7)

- 会費の支払い、引き落としにしてもらいたい
- 途中で入ったので年単位の会費がいくらになるの分かりづらい
- 途中で入団した場合の活動費の扱い
- 金額の計算方法、10月から入った場合の換算
- 年会費、スケジュール
- 入団時にかかる費用(制服なども含めて)
- 毎月の月謝等すぐにわかればよかった
- お金のことはきちんと伝える。質問にきちんと答える。

費用についても明確な説明を…

活動内容について (5)

- 年間スケジュールがあれば
- 集合場所など活動内容が少し良く見えなかった
- 年間の詳細スケジュール
- ゲスト参加のとき、「いつもの持ち物」とあり、分からなかった
- 年間スケジュールを早い段階で分かる計画が立てやすい

活動内容の説明にも注意のこと

## 今年の「すぎなみ舞祭」は「すぎなみmini舞」

10月11日(日)、「すぎなみmini舞」が下高井戸おおぞら公園で開催されました。

毎年開催の「すぎなみ舞祭」はコロナウイルスのため規模を縮小し、ステージも1つにして午後からの開催となり、参加は10チームで、名称も本年は「すぎなみmini舞」となりました。

このため、あすなる地区の活動紹介コーナーやゲームコーナーも設置されませんでした。

当日は地区のローバースカウト、指導者の奉仕のメンバーが横断幕の取り付け、テントの設営、場内の巡回警備、向陽中学校との間の横断歩道の交通整理などを行いました。



横断幕の取り付け



開会式



チームの息の合ったダンス



出演の前にもステップの確認



場内の巡回警備



横断歩道で交通整理

## 野口宇宙飛行士さん 3度目の宇宙へ

日本連盟のボーイスカウト・アンバサダーでもある野口聡一さん（神奈川・茅ヶ崎第2団ビーバー隊副長として在籍）は11月16日、米国の民間宇宙船「クルー・ドラゴン」で国際宇宙ステーションに出発しました。

野口さんらは世界がコロナ禍かたら早く立ち直れるよう、宇宙船を「レジリエンス（回復力、順応力）」と名付けました。

宇宙ステーションでの滞在中、野口さんは科学実験や超小型衛星の放出などを担います。

日本連盟では今回の野口さんの人類の歴史に残るミッションを応援するため、応援ワッペンを作成しており、地球帰還時まで、制服右ポケットに着用できます。

野口さんの「挑戦をやめない」姿勢を見習って、私たちも「挑戦」する際は、家族や隊の仲間の前で、これから自分が「挑戦」することを表明し、その挑戦をし続けることの証としてワッペンを着用できます。

コロナウイルスでスカウト活動が制約されるなど、困難な状況が続きますが、野口宇宙飛行士のミッション成功と無事地球への帰還を祈りながら、スカウト活動の歩みを止めずに、それぞれの挑戦を続けていきましょう。



### 日本連盟の野口飛行士応援特設ページ

<https://scout.or.jp/member/scout-noguchi2020-2021>



## 秋川の川中を行く

## 杉並11団ボーイ隊長 米田 元

杉並11団ボーイ隊は8月30日(日)に秋川ハイクを行いました。武蔵五日市駅からすぐに秋川の河原において、川原や川の中の浅瀬を戸倉キャンプ場まで進むハイクです。

最初は開けたところを進みますが、小和田橋を越えたあたりから渓谷の様相となり、ひんやりと気持ちいい浅瀬の中を水しぶきをあげ、どんどん進みました。周りの川原はバーベキューを楽しむ家族で結構にぎわっていました。

沢戸橋の近くまで来ると両岸は断崖となり、川が深くなるため、浅瀬を横切って淵を避け、川原の岩々を乗り越えていくアドベンチャーとなります。出発から約3時間かかって川沿いの戸倉キャンプ場に無事たどり着きました。

予約していた戸倉キャンプ場ではバーベキューを行いました。コロナ対策として担当スカウト一人がコンロで焼き、皿にもりつけて、一人一人静かに食べました。

食後は目の前の浅瀬で水浴びを行い、リフレッシュしました。帰りは道路に沿って武蔵五日市駅まで戻り、電車で杉並に戻りましたが、最寄りの井荻駅に着いてからもプログラムは続きます。

近くの井草森公園に行って、今後の活動計画について班会議を行い、その後夕食の“冷やしきつねうどん”を食べながら暗がりの中、班ごとに手持ち花火を行いました。

コロナ対応のため拠点の下井草教会で活動できず、キャンプファイアを行えない中、その代わりとして公園で花火を楽しんだものです。

こうして8月の最後に楽しい思い出ができました。



浅瀬を行く



岩場を行く



キャンプ場の前の浅瀬で水浴び



井草森公園で花火

## 信仰のおはなし

### あすなろ地区信仰奨励委員長 津村 道夫

ボーイスカウトの「ちかい」では、一番最初に「神（あるいは仏）にまことを尽くす」ことを誓いますね。

ボーイスカウトの創始者ベーデン・パウエルも、このことをとても大切にしていました。

でも皆さんは、このちかいの意味をしっかりと考えたことは、なかなかないのではないのでしょうか。

そこで、あすなろ地区の「宗教団（寺院や教会が母体の団）」の教導職の先生方に、お話をいただくことになりました。

お話を聞いて、少しでも「信じる」ことについて考える機会になればうれしいです。



### 杉並2団 団委員長 浄土真宗本願寺派築地本願寺和田堀廟所主管 平井 祐善

仏教では「つながり」を大事にしています。全ての人、物はつながっているということです。その「つながり」は互いに関係しあうことによって常に変化をし、生まれ、無くなっていきます。この「つながり」を縁と呼び、常に変化をしていくことを「諸行無常（しよぎょうむじょう）」と呼びます。仏教でとても大事にしている考え方です。

“祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。奢れる人も久からず、ただ春の夜の夢のごとし。猛き者も遂にはほろびぬ、偏に風の前の塵におなじ。”

『平家物語』の冒頭の文にも出てくる言葉でもありますので、聞いたことがある方もいるかもしれません。

私達の暮らしを見てみると、同じことの繰り返しのようで、実は昨日と今日はまったく違います。そして、今日と同じ日は二度と来ません。

学校へ行ったり、スカウト活動をしたり、友達と遊んだりという、いつもと同じ事をしているつもりでも、決してそれは今まで無かった事であり、また二度と無いことなのです。その瞬間、瞬間をどう過ごすかということが変化を生んで、様々な結果を生んでいき、その結果がまた何かを生んでいく。これが諸行無常です。

ですので、今という瞬間をどう過ごすかというのがとても大切になってきます。

友達と一緒にいる時でも、一緒にいることが当たり前だと考えると、「あ、話したいことがあったけど、また今度でいいや」となることはありませんか？でも、一緒にいれるのが今日で最後だと思うと話したいこと、聞きたいことなど、その一緒にいれる事を大事にするのではないのでしょうか？

友達と一緒にいる。これは当たり前のことのようにですが、実は当たり前では無く「有り難い」ことだと仏教では伝えています。

「有り難い」は「有り難し」であり、「めったにない」「めずらしい」を意味します。

それが変化して「有り難う」となります。

つまり「ありがとう」です。

そこにあることを「当たり前」と過ごしてしまうと、ただそれだけになります。

そこにあることを「有り難い」と大事にしていくこと、喜びと感謝にあふれる暮らしとなります。

日々の暮らしの「ありがとう」を大事にいたしましょう。



## 隼スカウト章の伝達

9月18日(金)、なかのZEROで開催された地区委員会に先立ち、杉並11団の佐藤颯さんに隼スカウト章の伝達式がおこなわれました。



## 富士スカウト章の伝達

10月9日(金)、スカウト会館で開催された東京連盟理事会に先立ち、杉並9団の相澤岳流さん、杉並11団の大森直幸さんに富士スカウト章が伝達されました。

なお、相澤さんの富士スカウト章個人プロジェクトの「キャンプマナー向上への提言」を、11～12ページに記載しています。



奥島総長より進級証を授与される相澤さん

山内理事長より進級記章を授与される大森さん

スカウト会館前で

## 富士スカウト章の記念品の伝達、プラチナハイカーの授与

10月22日(木)の地区委員会に先立ち、富士スカウト章の記念品が杉並9団相澤岳流さん、杉並11団大森直幸さんに伝達され、プラチナハイカーが杉並11団の米田真大さんに授与されました。

スカウト活動で歩行によるハイクが50kmはハイク50(シルバーハイカー)、100kmはハイク100(ゴールドハイカー)、200kmはハイク200(プラチナハイカー)になります。

ハイキングの距離やキャンプの泊数を記録帳に記録してハイク50、ハイク100、ハイク200や、キャンプ15、キャンプ30、キャンプ50に挑戦しましょう！



# 「キャンプマナー向上への提言」がオートキャンプ協会のHPに掲載

杉並9団ベンチャー隊の相澤岳琉さんは、富士スカウト章の個人プロジェクトとして、キャンプ場のゴミ問題に関して調べた経験を活かし、ボーイスカウトや一般のキャンパーのマナー向上のため「キャンプマナー向上への提言」をまとめました。

また、昨年夏の世界ジャンボリーで同じ班だった杉並13団ベンチャー隊の澁谷光太郎さんの協力も得て、リーフレットやポスターも作成し、キャンプ場にも掲示しました。

相澤さんはこの提言を啓蒙のため日本オートキャンプ協会に寄稿したところ、高校生からの「マナー向上への提言」としてホームページに掲載されましたので、その内容を紹介します。



## キャンプマナー向上への提言 杉並9団ベンチャー隊 相澤 岳琉

### 1. キャンプ場における現状の問題

私は小さなころから両親にキャンプに連れて行ってもらっていました。その際は必ず「来た時よりもきれいにしてから帰るように」と教わってきました。

そのため今でもキャンプ場を利用した際は、自分たちのグループが出したごみでなくても、キャンプ場内に落ちているゴミは拾うようにしています。

しかし現在のキャンプ場ではあまりマナーの良くないキャンプ場利用者があり、ゴミのポイ捨てなどが目立っているように感じます。

実際に20ヶ所のキャンプ場に問い合わせてみると、ゴミなどのポイ捨てなどが行われているとのことで、その対策として、キャンプ場はスタッフなどによるゴミ拾いなどを行って、ゴミが落ちていない環境をつくっているとのことでしたが、それではキャンプ場をきれいに保つことに限界があると考えています。



### 2. 課題解決のための提言

いくつかのキャンプ場に、マナー向上へどのような取り組みをしているか伺ったところ、多くのキャンプ場でサイト内の見回り等を行い、落ちているゴミを回収しているキャンプ場が多くありました。

しかしそれではキャンプ場利用者のマナーが向上することなく、キャンプ場側の負担が増えてしまう状況です。

そこで今回キャンプ場利用者のマナー向上を図ることで、キャンプ場内でのポイ捨てが減らせるのではないかと考え、「OLP」という標語を使い広めていくのがよいのではないかと考えました。

「OLP」とはオリエンテーション **O**rientation、リーフレット **L**eaflight、ポスター **P**oster の頭文字をとって作成した標語です。

「OLP」による啓発活動を広めていくことで、日本全体のキャンプマナーが向上し、多くの人が利用しやすいキャンプ場をつくることにつながると考えます。

### 3. 具体的な内容

具体的な「OLP」の内容は、キャンプ場受付での“オリエンテーション”、“リーフレット”の配布、水場や炊事場、お手洗いなど、ゴミを放置されることの多い箇所に“ポスター”を目につくように設置することです。

受付での“オリエンテーション”では、利用者に必ず利用上のルールなどをきちんと伝えることができます。

“リーフレット”では、利用者がサイトに戻っても、利用ルールなどを確認することができます。

“ポスター”で実際に利用者が炊事場などを汚した際にも、その場にポスターを設置することで、そのまま放置することなどを思いとどまらせることができるのではないかと考えています。

### 4. 対策後のイメージ

今回提案させて頂いた「OLP」を実際のキャンプ場に広めていくことで、キャンプ利用者のマナーの底上げができると考えています。

それによりキャンプ場スタッフによるサイト巡回などを減らすことができ、キャンプ場側の仕事を減らすことが出来ると考えます。

また、キャンプ場をすべての人が気持ちよく利用できるようになると考えられるため、よりキャンプ場の利用者が増えて、キャンプブームを支えることにもつながると思います。

# Camp site is not a dumpsite!

キャンプサイトはゴミ捨て場ではない！

杉並9団相澤岳琉

## なぜ取り組んだの？

マナーのよくない  
キャンパーが  
増えたと感じたから



## どうやって？

電話で20カ所のキャンプ場に  
取材のアポ取り、OKをもらったら  
FAXでアンケートを送付



## 問題点

- ・ごみをポイ捨てするキャンパーが多くなってきている
- ・ゴミの引き取りを行っていてもサイト内にごみを残していく人がいる
- ・スタッフでサイト内のゴミを回収しているキャンプ場が非常に多かった など...

## 集計

返信のあった8件の  
アンケートを分析

## キャンプ場のため の標語を創案！！

キャンプ場が利用者のごみ問題を解決するためには

# OLP

が重要です！

Orientation, Leaflet, Poster



OLPの一部実施

OLPの啓蒙



富士山 YMCA キャンプ場に  
OLP を提案、仲間の協力で  
作成したポスターを掲示！

キャンプ場に影響力のある  
一般社団法人日本オート  
キャンプ協会に提言！



作) 日黒7団遊谷萌々子

キャンプ場は多くの  
人が楽しめる場所で  
管理人の方がとても  
綺麗に整備してくだ  
さっています。ポスタ  
ーを見て一人でも多  
くの人がゴミに関心  
を持ってもらえる  
と嬉しいですよ。



このポスターを通して  
ゴミを捨てていく人が  
少しでも減ってくれた  
らうれしく思います。



作) 杉並13団遊谷光太郎



ホームページに  
掲載されました！